



SGE五木東

平成28年11月2日(水) 学校便り



10月31日(月)総合的な学習の時間に、3年生以上の児童で脱穀を行いました。園田農林株式会社の園田様と米作り名人の兼田様に指導をしていただきました。児童たちの元気なあいさつの後、いよいよ体験学習の脱穀です。

6年生から順番に、二人一組になり足踏み式脱穀機で脱穀を行いました。最初は、脱穀機のドラムを回すことに苦労していましたが、どんどん上手になりました。3年生にとっては、脱穀機の位置が高すぎて、脱穀機に稲を入れるのに苦労をしていました。たまに巻き付けて脱穀機を止めてしまう場面もありました。ゆっくり入れるなど「力の入れ方を加減することが大切だ」という体験をすることができました。

次は、唐箕(とうみ)体験です。唐箕とは、脱穀した米の中に混ざっている籾殻や藁屑を風の力で飛ばします。また、重い米と軽い米も分けていきます。昔は、木でできたものが主流でしたが、今回使ったのは金属製のコンパクトなもので、児童たちにも使いやすいようでした。手で回すと風が起こり、米の選別が始まると、子どもたちから歓声が起こりました。選り分けた後、身が詰まった重い米と身が少ない軽い米を手で触れて、ざらざら感や重さを確かめました。

本日体験した脱穀と選別を同時に行うハーベスタという機械での作業も見せていただきました。その作業の速さに児童は、とても驚いていました。

最後に、兼田様から「いつも食べている米ですが、食べるまでにはとても手がかかっています。大切に食べてください。」と話されました。学校からは、尾方優奈さんが児童を代表して「脱穀を指導していただきありがとうございました。やってみると大変で難しかったけど、とても楽しい体験ができました。今日の給食では、お米を作ってくださった方に感謝して食べたいです。」と、御礼を述べました。優奈さんの言葉から、この体験が子どもたちにとって、とてもよい経験になっていると感じました。園田様をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。